(Ⅳ－85) 自動車旅行を考慮した公的観光施設についての基礎的研究

足利工業大学大学院 学生員　小松礼知
足利工業大学工学部 正会員　為国孝敏
足利工業大学工学部 正会員　中川三朗

1．はじめに

戦後、高度経済成長と交通基盤施設の整備により、わが国における観光形態は様々に変化してきた。一方で余暇時間が増加するにあたって国や地方公共団体により自然休養村、青少年旅行村、家族旅行村などの「公的観光レクリエーション地区」の整備が行われ、観光施設の多様化が図られた。

しかし、近年、自動車運転免許保有者が7200万人を超え、免許保有率70％（取得可能年齢人口比）になる情勢と約50％の旅行者が宿泊観光旅行に自動車を利用している実態を考えると、旅行者ニーズの変化にこれらの公的観光施設での宿泊施設が対応できているのかが課題となってきた。

そこで、自動車を利用した宿泊観光旅行の選好要因等の分析に必要なデータの収集を目的として、アンケート調査を実施し、この結果から自動車を利用した宿泊旅行者はどういった宿泊施設を選好するかを探ることを本研究の目的としている。

2．アンケート調査概要

本調査は自動車を利用した宿泊観光旅行者を対象とするため、自動車利用者の集積が見込まれる「道の駅」でアンケート調査を行った。

本調査の項目を以下に列挙する。

個人属性（性別、年齢）

自動車利用した宿泊観光旅行について

(旅行の主な目的、旅行の同行者、宿泊施設、宿泊日数、宿泊予算、自動車利用の旅行者（以下旅行者）が望む宿泊施設)

なお、本調査の概要を表－1に示す。

表－1　本調査の概要

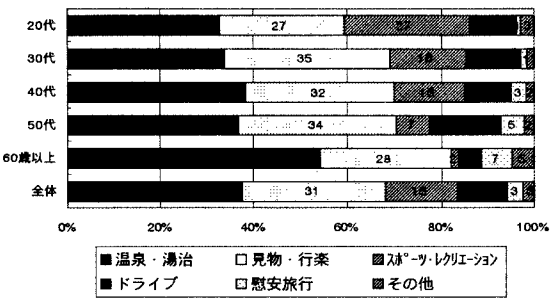
調査場所	調査日時	配布票数	有効回答（人）	有効回答率（%）
道の駅 もてぎ	H11.11.13（土） 9:00～16:00	202	191	94.6
道の駅 湯の香しおばら	H11.11.14（日） 9:00～16:00	226	207	91.6
合　計		428	398	93.0

3．アンケート調査結果

調査対象の自動車を利用した宿泊観光施設の主な目的、それに伴う旅行者の同伴者、宿泊施設、一人一泊あたりの宿泊料金、および旅行者の望む宿泊施設を集計した結果を以下に示す。

(1) 旅行の主な目的

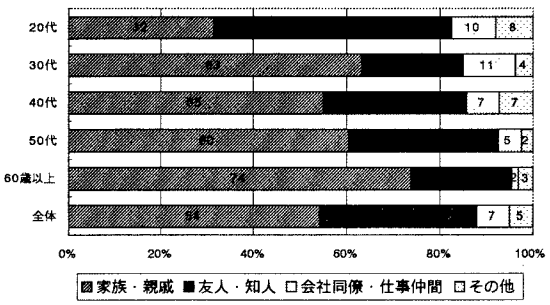
自動車による宿泊観光旅行の主な目的を図－1に示す。年齢階層別では「温泉・湯治」と「見物・行楽」が各年齢層で高い割合を占めているが、20代では「スポーツ・レクリエーション」が「見物・行楽」と同じ割合となっている。また、年齢が高くなっていくごとに「スポーツ・レクリエーション」の割合が減少しており、50代、60代では少数の割合となって、50代ではそれに代わり「ドライブ」が割合をしめ、60代では「温泉・湯治」で全体の約半数以上を占めている。



図－1　旅行の主な目的

(2) 旅行の同行者

自動車による宿泊観光旅行の主な目的に伴う旅行の同行者を図－2に示す。年齢階層別ではほとんどの年齢層が「家族・親類」で占めているが、20代は「友人・知人」が約半数を占めている。



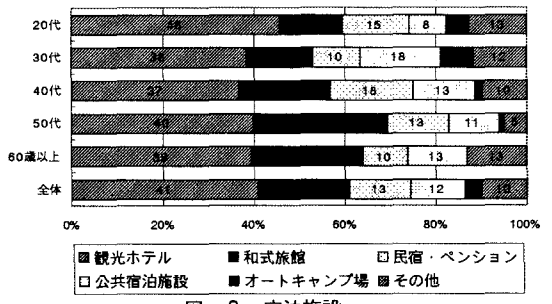
図－2　旅行の同行者

(3) 宿泊施設

自動車による宿泊観光旅行の主な目的に伴う宿泊施設を図－3に示す。全年齢層で「観光ホテル」の人気が高い。全体で2番目の割合を示している「和式旅館」では年齢層によって順位が異なる。具体的には20代では「民宿・

ｷｰﾜｰﾄﾞ：自動車旅行、公的観光施設、宿泊施設　〒326-8558　足利市大前町268-1　TEL 0284-62-0605　FAX 0284-64-1061

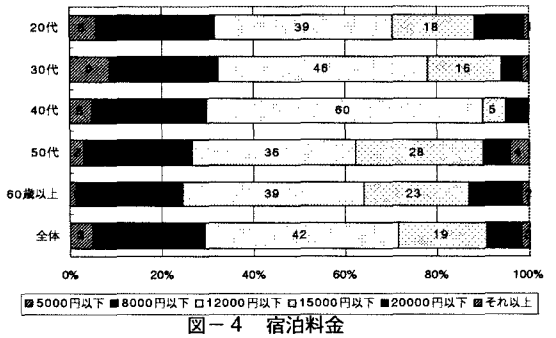
ペンション」、30代では「公共宿泊施設」、40代以降では、「和式旅館」がそれぞれ2番目の割合を示している。



図－3　宿泊施設

（4）宿泊料金

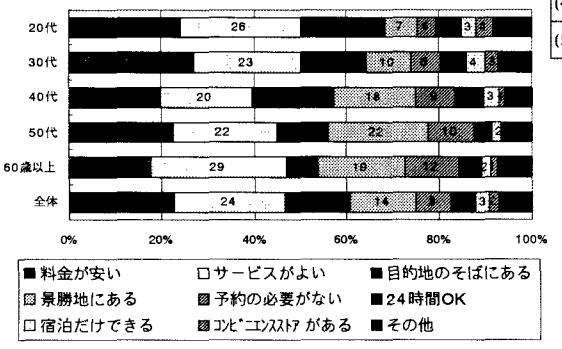
自動車による宿泊観光旅行の主な目的に伴う宿泊料金を図－4に示す。30代、40代では「12000円以下」の割合が多く、50代、60代では他の年齢層よりも「15000円以下」が多い割合となっている。



図－4　宿泊料金

（5）旅行者が望む宿泊施設

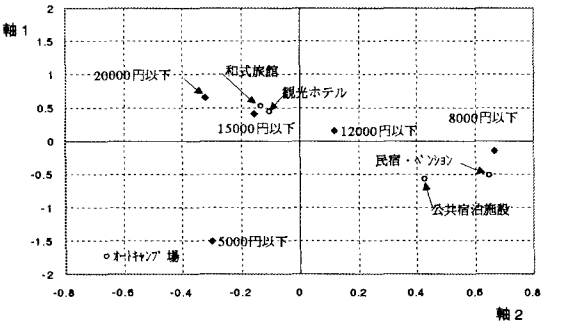
旅行者がどのような宿泊施設を望んでいるかというのを図－5に示す。全年齢層で「料金が安い」「サービスがよい」が高い割合を示している。また、次に高い割合になっている「目的地のそばにある」、「景勝地にある」が年齢層によって割合が逆転している。「目的地がそばにある」が高い割合を示しているのは20代で、年齢層が高くなるにしたがって減少している。また、逆に「景勝地にある」が高い割合を示しているのは50代、60代で年齢層が低くなっていくにしたがって減少している。



図－5　旅行者が望む宿泊施設

4．選好要因の相互関連分析

前述の分析結果から得られた選好要因について、相互関連分析を行った。なお、分析に用いた選好要因は「宿泊料金」と「宿泊施設」とし、これを双対尺度法を用いて分析を行った（図－6）。



図－6　宿泊料金と宿泊施設の関係

図－6より「宿泊料金」と「宿泊施設」との関係は3グループに分けることができる。1つ目は「12000円以下」、「15000円以下」、「20000円以下」と『観光ホテル』、『和式旅館』である。2つ目は「8000円以下」と『公共宿泊施設』、『民宿・ペンション』である。3つ目は「5000円以下」と『オートキャンプ場』である。この結果と前述のアンケート調査結果から判断すると、8000円以上の料金帯が7割を占めていることから、選好要因で高い割合を示している「料金が安い」とは、「8000円以下」と考えることができる。すなわち、8000円以下の宿泊施設として当てはまるものは、『公共宿泊施設』、『民宿・ペンション』、『オートキャンプ場』と言うことができる。

5．おわりに

旅行者の選好意識の分析をまとめると、表－2のような特徴を整理することができた。

表－2　旅行者の選好意識の分析結果のまとめ

	選好項目	全　体	特徴1	特徴2
(1)	旅行の主な目的	温泉・湯治 見物・見学	スポーツ・レクリエーション (20代)	ドライブ (50代)
(2)	旅行の同行者	家族・親戚	友人・知人 (20代)	家族・親類 (60歳以上)
(3)	宿泊施設	観光ホテル 和式旅館	公共宿泊施設 (30代)	民宿・ペンション (40代)
(4)	宿泊予算	12000円以下	12000円以下 (40代)	12000円以上 (50代、60歳以上)
(5)	回答者が望む宿泊施設	サービスがよい 料金が安い	目的地のそば (20代)	景勝地 (50代、60歳以上)

表－2と図－6の結果から判断すると、「公共宿泊施設」は料金面では利用者の意識と合致している。しかし、宿泊施設を全体では、その割合が高くない。このことから旅行者の希望が高い「サービスがよい」、「予約の必要がない」の運営要因と「目的地のそばにある」「景勝地にある」の立地要因との適切な組み合わせが、公共宿泊施設には必要と考える。合わせて、公共宿泊施設自体の周知度が低いため、どのような情報提供がなされているかについても検討する必要がある。